

# 宮崎 洋幸

みやざき ひろゆき

## 宮崎 洋幸 Hiroyuki Miyazaki

健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授／専攻長  
認定作業療法士（2018年～2023年）

### 学歴・学位

北海道大学 医療技術短期大学部 作業療法学科 卒業  
広島大学大学院 保健学研究科 保健学専攻 博士課程前期修了（保健学修士）  
県立広島大学 総合学術研究科 生命システム科学専攻 博士後期課程在学中

### 主要職歴

- |                         |  |
|-------------------------|--|
| 昭和 63 年 4 月～平成 6 年 3 月  | ○ 厚生年金事業振興団 登別厚生年金病院 リハビリテーション部                |
| 平成 6 年 4 月～平成 10 年 3 月  | ○ 医療法人仁康会 小泉病院 生活支援部                           |
| 平成 10 年 4 月～平成 12 年 6 月 | ・同法人 本郷中央病院 老人デイケア                             |
| 平成 12 年 7 月～平成 16 年 3 月 | ・同法人 介護老人保健施設 ドリームせせらぎ 主任療法士                   |
| 平成 16 年 4 月～平成 25 年 3 月 | ○ 学校法人古沢学園 広島医療保健専門学校 作業療法学科 専任教員              |
| 平成 25 年 4 月～令和 2 年 3 月  | ・同法人 広島都市学園大学 健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 准教授    |
| 令和 2 年 4 月～現在           | ・同法人 広島都市学園大学 健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授／専攻長 |

### 専門分野

作業療法教育（臨地・養成教育）、作業療法理論（作業行動理論、人間作業モデルなど）、一次予防 OT  
高次脳機能、ハイレゾリューション音源の効果、認知機能、模倣 imitation、自律神経機能

### 主な担当科目

ヒロシマのこころ、リハビリテーション概論、チーム医療論、リハビリテーション医学－（オムニバス）、フレッシュマン SGL  
高次脳機能障害作業療法学、高次脳機能障害作業療法学演習、作業療法治療学総論（理論）  
作業科学、セルフケア論－（2020年度迄）  
作業療法特論、臨床実習指導、基礎臨床実習、臨床見学実習、総合臨床実習、卒業研究指導など  
大学院；脳神経機能論／研究法  
看護学科：ヒロシマのこころ、チーム医療論  
言語聴覚専攻科：リハビリテーション概論、チーム医療概論

## 研究テーマ

---

作業療法学学生の養成教育および臨床教育に関する研究  
ハイレゾリューション音源が人にもたらす影響に関する研究  
認知神経機能を用いる特定の作業活動が自律神経指標へおよぼす影響に関する研究  
一次予防としての作業療法活用に関する実践を含めた研究

## ひとこと（ふたこと・みこと）

---

作業療法学は、幅が広く、基礎となる作業科学は全ての人を対象となります。学域は、予防・ヘルスプロモーションから種々の障がい領域まで非常に幅が広いです。これからの医学界は、再生医療やニューロリハビリテーションの台頭を迎え、それを取り巻きリハビリテーション医療は、ダイナミックなパラダイムシフトが生じると思います。その時代に対応する作業療法を生み出していくことの重要さも視座に入れて、新たな理念やリハビリテーション技法を創出する人財として・根本的な作業療法を提供する人財として、本学本専攻で学んでください。是非、入学されることをこころ待ちにしています。また、卒後も勉強会や研究などを通して、作業療法士としての技術や職業観を熟成（aging～時熟）させていきましょう。生涯かけて、学ぶにふさわしい学問領域（職業）です。

## その他（所属学会・団体）

---

日本作業療法士協会会員、広島県作業療法士会会員（第23回 広島県作業療法学会 実行委員長）  
日本作業行動学会会員（2017年～2018年 評議員）、日本高次脳機能障害学会会員  
日本自律神経学会会員、日本認知神経リハビリテーション学会会員  
一次予防としての作業療法研究会／65歳大学勉強会主宰（2018年）  
一次予防としての作業療法研究会／OT観を豊かにする勉強会主宰（2019年～現在）

## 研究活動

---

### 学術論文

- 1) Hiroyuki Miyazaki, Toshihide Harada, Jyunnya Aonaka, Fumiko Ishizaki, Yuko Kodama, Shoji Ito, et al: Study on Comparison of 24 with 16 Bit Headphone High-Resolution Music Box Audio. International Medical Journal Vol. 27, No. 1, pp. 55 - 57, 2020.2.
- 2) Hiroyuki Miyazaki, Toshihide Harada, Jyunnya Aonaka, Fumiko Ishizaki, Yuko Kodama, Shoji Ito, et al: Relationship between Autonomic Nervous Function and High-Resolution Music Box Audio. International Medical Journal Vol. 27, No. 1, pp. 13 - 15, 2020.2.
- 3) Toshihide Harada, Fumiko Ishizaki, Yumiko Nitta, Yumiko Miki, Hideaki Numamoto, Miwa Hayama, Shoji Ito, Hiroyuki Miyazaki, Satomi Aoi, Hiromi Ikeda, Tadayuki Iida, Juko Ando, Masato Kobayashi, Ito Makoto, Tsuneshi Sugawara, Kohji Nakabeppu, Kohsaku Nitta: Relationship between the Characteristics of Therapy Goat and Children and Older People. International Medical Journal Vol.26(5): pp.405-408, 2019.10.
- 4) Harada T, Ishizaki F, Nitta Y, Miki Y, Hayama M, Ito S, Miyazaki H, Aoi S, Ikeda H, Iida T, Ando J, Nitta K: Relationship between the characteristics of a late-onset familial giant thyroid cyst and aspiration treatment. International Medical Journal 26 (4): pp.318-320, 2019.8.

- 5) Nitta K, Harada T, Ishizaki F, Nitta Y, Miki Y, Hayama M, Ito S, Miyazaki H, Aoi S, Ikeda H, Iida T, Ando J, Ito M, Asakura Y: Relationship between characteristics of genetic study and Kartagener syndrome of elderly people. International Medical Journal 26 (4): pp.316- 317, 2019.8.
- 6) Harada T, Aonaka J, Miyazaki H, Ishizaki F, Kodama Y, Ito S, Nitta Y, Miki Y, Yamamoto R, Niyada K, Aoi S, Ikeda H, Iida T, Suehiro K, Nitta K: Impacts of high-resolution and high-cut music box audio on balance. International Medical Journal 26 (2): pp.118-121, 2019.4.
- 7) Harada T, Ishizaki F, Nitta Y, Miki Y, Hayama M, Ito S, Miyazaki H, Aoi S, Ikeda H, Iida T, Ando J, Nitta K: Relationship between the characteristics of symptoms and esophageal hiatal hernia in aged patients. International Medical Journal 26 (2): pp.84-85, 2019.4.
- 8) 3 年次基礎臨床実習における社会人基礎力と社会交流技能の変化について～合宿研修の成果を参考にした考察～〔宮崎洋幸、丹羽敦、角田孝行〕：リハビリテーション教育研究, vol.25, 2019 年 3 月
- 9) Ito S, Harada T, Ishizaki F, Yamamoto R, Niyada K, Miyazaki H, Nitta Y, Suehiro K, Nitta K: Relationship between acceleration plethysmography and headphone high-resolution music box audio. International Medical Journal 25 (5): pp.327-329, 2018.10.
- 10) 理学療法学生における宿泊研修の効果—社会人基礎力およびコミュニケーションスキルの変化— (共)〔馬屋原康高、丹羽敦、宮崎洋幸、他 3 名〕リハビリテーション教育研究, vol.22, pp.168-169, 2017 年 3 月
- 11) ハイレゾリューション・オルゴール音による 自律神経機能への影響について (共)〔伊藤祥史、原田俊英、山本竜太、二矢田勝行、宮崎洋幸、他 2 名〕診療と新薬, 54, pp.133-136, 2017 年
- 12) ハイレゾリューション・オルゴール音の量子化ビット数の違いが自律神経機能に及ぼす影響 (共)〔伊藤祥史、原田俊英、石崎文子、山本竜太、二矢田勝行、宮崎洋幸、他 3 名〕診療と新薬, 54, pp.137-140, 2017 年
- 13) Shoji Ito, Toshihide Harada, Fumiko Ishizaki, Ryuta Yamamoto, Katsuyuki Niyada, Hiroyuki Miyazaki, et.al , " Effect of High-Resolution Audio on Function of Autonomic Nervous System", International Medical Journal Vol.23, No.4, pp.339-341, August 2016
- 14) Toshihide Harada, Yuko Moriwaki, Shoji Ito, Fumiko Ishizaki,Ryuta Yamamoto, Katsuyuki Niyada, Hiroyuki Miyazaki, et.al , " Influences of High-Resolution Music Box Sounds on the Peripheral Vascular System", International Medical Journal Vol.23, No.6, pp.709-711, December 2016
- 15) 虚弱高齢者における模倣機能と生活機能と関連 (単・修論)〔宮崎洋幸〕広島保健学ジャーナル Vol.12(1),2014 ; 広島大学大学院保健学研究科保健学専攻修士論文題目 2010 年 3 月修了生

ほか

#### その他 (学会発表等)

- 1) 「教員帯同による臨床教育を実施した臨床実習指導者と養成校の協働の成果について」：第 25 回 広島県作業療法学会筆頭ポスター演題発表 (採択) : 宮崎洋幸, 山川敦史, 丹羽 敦, 児玉 努, 上原政一 : 2020 年 3 月 8 日開催予定がコロナ禍にて延期 ; 遠隔縮小にて県学会実施 ; 筆頭口述発表延期
- 2) 「ハイレゾリューション・自然音を聴取したときの自律神経機能への影響について」 : 日本自律神経学会 第 72 回総会 (北九州国際会議場) : 2019 年 11 月 3 日 ; 筆頭口述発表

- 3) 「臨学共同による新たな臨床実習形態の実践について～事前に症例情報提供を受けた教員帯同による臨床教育～」：全国リハビリテーション学校協会主催 教育研究大会・教員研修会 第 32 回大会（中部大学春日井キャンパス）：2019 年 8 月 30 日；筆頭ポスター発表
- 4) 「イヤホンから出力したハイレゾリューション音が自律神経機能へ及ぼす影響について」：日本自律神経学会 第 71 回総会（ラフレさいたま）：2018 年 10 月 25 日；筆頭口述発表
- 5) 「3 年次基礎臨床実習における社会人基礎力と社会交流技能の変化について～合宿研修の成果を参考にした考察～」：全国リハビリテーション学校協会主催 教育研究大会・教員研修会 第 31 回大会（北海道文教大学）：2018 年 8 月 25 日；筆頭ポスター発表
- 6) 「作業療法学生の社会人基礎力養成に向けた合宿研修における 1 年次と 2 年次の経年的効果について」：全国リハビリテーション学校協会主催 教育研究大会・教員研修会 第 30 回大会（新潟福祉医療大学）：2017 年 9 月 1 日；筆頭ポスター発表
- 7) 「作業療法学生の社会人基礎力養成にむけた合宿研修の効果について－社会人基礎力とコミュニケーション・スキル尺度を用いた検討－」：日本作業療法学会 第 50 回（札幌学会）：2016 年 9 月 9 日；筆頭口述発表
- 8) 「乗馬療法における対象者の行為観察から精神機能分析を目的とした評価尺度の開発」：川嶋舟、黒田絵美、淵上真帆、宮崎洋幸、森川敦子：第 47 回 日本作業療法学会：2013 年 6 月；共同口述発表
- 9) 「後輩育成における協業について」：広島県作業療法士会 生涯教育講座（広島大学医学部保健学科講義室）：2010 年 3 月；講師・口述講演
- 10) 「帰宅欲求が強い認知症高齢者に対する傾聴の意義について」：保元操ほか病棟スタッフ一同、宮崎洋幸：老人保健施設学術大会：2004 年 2 月；共同口述発表
- 11) 「介護老人保健施設通所リハビリテーションにおける園芸活動の意義について」：荻原健司ほか介護職員一同、宮崎洋幸：老人保健施設学術大会：2004 年 2 月；共同口述発表
- 12) 「介護老人保健施設における作業療法の役割と今後の課題」：第 8 回 広島県作業療法学会（広島市）：2003 年 3 月；指定演題・筆頭口述発表
- 13) 「プロジェクト化による OT 部門の管理運営の取り組み」：第 32 回 日本作業療法学会（栃木学会）：1998 年 6 月；筆頭口述発表
- 14) 「身体障害領域と精神障害領域における在宅訪問アプローチの臨床特性について」：第 31 回 日本作業療法学会（新潟学会）：1997 年 6 月；筆頭口述発表
- 15) 「生きがいについて」シンポジウム：北海道理学療法学会 室蘭学会：1994 年 3 月；シンポジスト口述発表
- 16) 「欧米と日本の地域リハビリテーションの違いについて」：厚生年金事業振興団リハビリテーション集談会：1993 年；シンポジスト口述発表
- 17) 「在宅医療に関する住民の意識調査（北海道登別市民意識調査アンケート実施、3000 名対象）」：厚生年金事業振興団リハビリテーション集談会口述発表・事業団研究助成事業報告作成：1993 年；共同・企画チームリーダー
- 18) 「ホームエバリュエーションの意義について－第 2 報－」：厚生団リハビリテーション集談会：1991 年；筆頭口述発表

- 19) 「低刺激環境が入院患者に及ぼす心理的影響について」：厚生団リハビリテーション集談会：1989年；筆頭  
口述発表

---

著書（書籍執筆）

- 1) 「学習の要点を確認！OT 臨床実習のチェックポイント」（共）丹羽敦 編著：第1章（5）臨床実習の形態と学習目標（見学実習・評価実習・地域作業療法実習）部分執筆；メジカルビュー社；2020年3月発刊